

令和元年度

第1回 自治体等 FM 連絡会議 とちぎ地域会 実施報告書

メインテーマ「官民連携による公共施設マネジメント」

1 メインテーマ設定理由

少子高齢化・人口減少が進展し、地方自治体における公共施設の適正管理はより重要性を増す一方、施設の老朽化対策へ限られた予算、人員で取り組まなくてはならず、旧態依然とした組織体制の中では、行政発意による改善機会・意欲は失われつつあります。

しかし、現況が続いた場合、施設の安全管理など十分な公共サービスを維持することはより困難となるだけでなく、公共施設が直接原因となる事故を招きかねません。

そのため、将来においても必要なサービスを維持・向上させるため、行政だけの考えに依らず、広くアイデアを求め、改善に向けた具体的な見直しを推進するよう、民間事業者との連携を図っていくことは、これからの公共施設マネジメントには不可欠です。

そこで、今回の地域会のメインテーマを「官民連携」とし、先進自治体のほか先進事例に関与されている民間事業者も複数招致することで、民間事業者が求めている行政の取組や情報について意見交換し、まずは事業実施に向けた心構え等を学ぶこととしました。

2 実施内容

(1) 開催日時 令和元年 8 月 23 日（金）午前 10 時から午後 4 時まで

(2) 開催場所 鹿沼市民文化センター1F 大会議室（栃木県鹿沼市坂田山 2 丁目 170）

(3) 参加者 午前の部：県内 15 自治体（栃木県含む）、協力企業 4 社 計 78 名
午後の部：県内 15 自治体（栃木県含む）、協力企業 5 社 計 38 名

(4) 内 容

第1部（午前の部） 研修会

①講演

■講師：沼田市 総務部 財政課 FM 推進係 副主幹 戸部 隆之 氏

■演題：試行錯誤の公共 FM・PPP

～新庁舎包括管理・随契保証型の民間提案制度までの取組～

【講師情報】

平成 12 年度沼田市役所入庁。教育委員会、税務、交通、環境を担当ののち、平成 26 年度より沼田市の公共施設マネジメントを担当。認定ファシリティマネジャー。

平成 31 年度に管財係から独立し、FM 推進係が創設され、同年度より「ファシリティマネジメント施策に関する民間提案制度」、「包括施設管理業務委託」を実施中

講師として群馬県沼田市において、随意契約保証型の「ファシリティマネジメント施策に関する民間提案制度」、複合化された新庁舎への移転を契機とした「包括施設管理業務委託」に取り組まれている戸部隆之氏をお招きし、本取組に至るまでの経緯や事業実施における姿勢についてもあわせて講演いただきました。

まず、戸部氏からは、ヤフー官公庁オークションによる小さな成功事例に端を発する様々な FM に関する取組について説明いただき、職員研修による庁内の同志集め、また自身の積極的な外部研修会等への参加による全国的なネットワークの構築を通じ、そこで得られた仲間・知識を生かし、着実に実行に移してきた真摯な姿勢に心打たれた参加者も数多くいました。

また、老朽化した旧庁舎から複合施設としてリノベーションされた新庁舎への移転に際し、試行

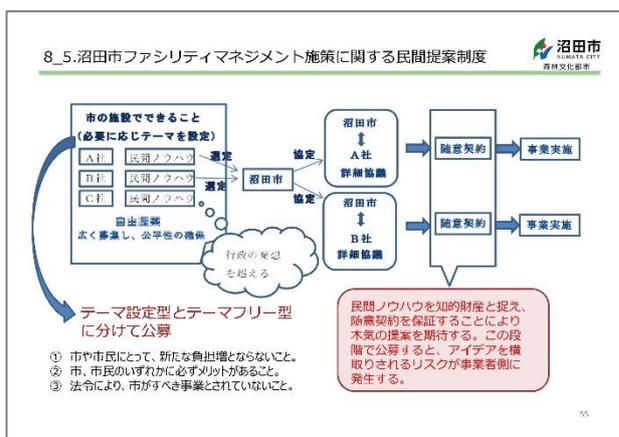
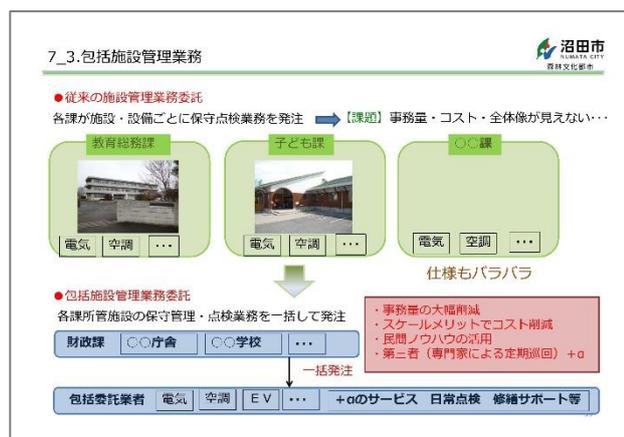
錯誤しながら実施された施設管理に関するサウンディング型市場調査等の体験談は、官民連携事業に踏み出せていない自治体にとって勇気づけられる事例であると感じました。

こうした、他自治体の先行事例を貪欲に取り入れ得られた成果は、ひとえに個人のスキルを市全体に波及させようとする戸部氏の意識の高さからくるものだと推察されました。

さらに、沼田市では、今年度より随意契約保証型の民間提案制度にも取り組み、初年度のテーマとして庁舎移転後の跡地の利活用を設定し、現在意欲的に推進されています。

隣県ではありますが、引き続き沼田市の取組に注目し、参考とさせていただきたいと思います。

自治体等 FM 連絡会議を通じて知己を得ただけではなく、今回の講師も快くお引き受けいただいた戸部氏には、ご多用のところご協力いただき、厚く御礼申し上げます。



※沼田市資料より抜粋

② 鹿沼市公共施設マネジメントの取組

■ 説明：鹿沼市 財務部 公共施設活用課 公共施設活用係 主査 金子 隆幸

鹿沼市からは、公共施設等総合管理計画の策定後の、計画の基本方針に基づく、体制構築・制度設計・事業実施等への落とし込みの流れとその個別事業について説明しました。

人口増加時代に整備された市の公共施設の更新問題は、仮に人口増による税収の恒常的な増加が再現された場合でも、解決しえない深刻な課題であり、施設の保有割合からみても、FM 部門単独での解決は不可能です。

そこで、今回の研修会には鹿沼市職員も多く参加したことから、説明では全体フレームの理解促進と、公共施設活用課が組み上げた分析方法と実施ツールを活用していただけるよう「他部門へのお願い」に重点を置かせていただきました。

現在、公共施設活用課では廃校の利活用等を重点事業として取り組んでいますが、単独部署の局所的な試みに止まらず全庁的な水平展開がなされるよう、引き続き事業精度の向上を図るとともに、施設見直しに関する庁内外の相談窓口としての対応を強化していく所存です。

3 参加者アンケート結果

研修会の感想では、沼田市戸部氏の成功事例だけではなく失敗事例も交えた講演に対し、リアルな体験談として自分事にも生かしたいとの意見が多く、大多数から好評価をいただきました。

これからの公共施設マネジメントに必要な取組みについては、今回のメインテーマを踏まえ「民間活力の導入」に最も多くの回答があり、民間への期待が大きく感じられました。

しかし、これは現状の行政の仕組み・考えのままでは解決できないと行政職員が日頃感じていることの裏返しとも言えます。

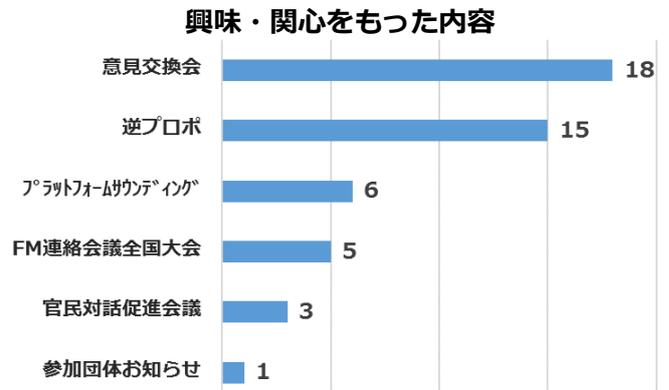
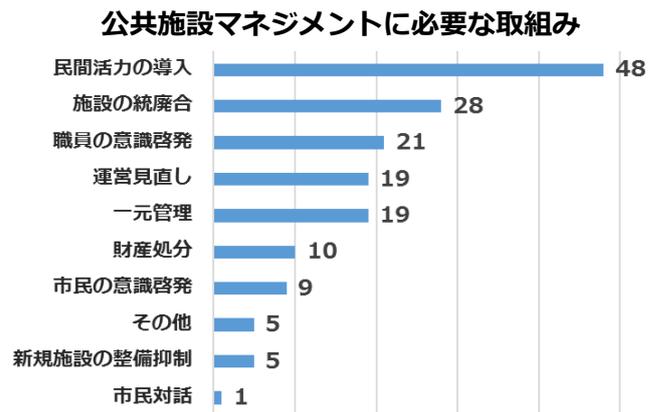
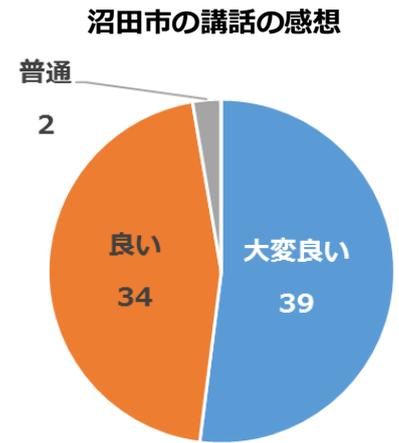
民間活力の導入さえすれば解決するといった依存的な思考に陥らないよう、あくまで官民連携は公共サービスの維持向上に向けた手法の一つであることを認識した上で本来の事業目的を遂行していく必要があります。

午後の意見交換会で興味・関心をもった内容については、前回同様、「意見交換会」に最も多くの回答が得られました。

注目は公共 R 不動産が前年度に引き続き実施される「逆プロポーザル」への関心が高い点です。

国土交通省主催の「プラットフォームサウンディング」も、官民のマッチングを行うという趣旨に関しては同様のイベントですが、まず民間アイデアが出発点という、通常の施設活用の流れとは逆のコンセプトの「逆プロポーザル」が、行政職員にとって非常に魅力的に感じられたのかと思われます。

本地域会では、これらの結果を踏まえた内容の見直しを図り、参加者にとって有益な事業となるよう心掛けてまいります。



4 おわりに

総務省による公共施設等総合管理計画の策定要請から数年経過し、個別施設計画を策定している自治体も多い状況ですが、公共施設マネジメントの取組が形式化することなく、具体的な見直しへと繋がられる流れを生み出す必要があります。

しかし、老朽化する施設は増加する一方、職員数は減少傾向にあり、課題意識はあっても中長期的な改善に向けた実行意欲は日常の維持管理業務の中で埋没し、暗澹たる気持ちに陥ってしまいがちです。

そのため、現状に目を落とすだけではなく、将来に向かって担当者がまず第一歩を踏み出せるよう、本地域会では引き続き先進自治体等の取組紹介や情報交換を行い、夢のある明るい集いにしたいと考えています。

今回参加いただいた皆様には、この場をお借りして御礼申し上げますとともに、県外自治体の皆様におかれましても、引き続きのご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(代表幹事 鹿沼市公共施設活用課 担当：金子)